

## 循環型社会を形成するために ～ 皆さんの成果 ～

循環型社会とは、環境への負荷を減らすため、リサイクルなどの仕組みを構築したり、「リデュース（ごみを少なくする）」「リユース（再使用する）」「リサイクル（再生利用する）」の3Rを行い、社会の中にある資源を循環させて使用して、自然界からの資源の採掘を少なくし、廃棄物を抑える社会のことです。

我社では、2002年社内焼却場の廃止をきっかけに、埋立ゴミ・焼却ゴミを減らすことを追求する為、分別の精度UPを図りつつ、リサイクル先を探してきました。その努力の成果として、リサイクル率が飛躍的に向上しました。

### ◇ 皆さんが取組んできた主な活動

- ・廃棄物としていたプラスチック通い箱を有価物として買い取って貰い、マテリアルリサイクル（原料として再利用）できた。
- ・掃き掃除したゴミは、埋立ゴミとして30kg/月あったが、収集グループが集めてから分別することで2～3kg/月になり、更に、路盤材原料へリサイクルすることで、掃き掃除したゴミの埋立ゴミはゼロとなった。
- ・木くずは全て焼却物としていたが、分別を行い油付着無しの場合は紙の原料として、油付着はサーマルリサイクル（燃料として再利用）としてリサイクルできた。
- ・ボンデスラッジをセメント材料としてリサイクルできた。
- ・全社ソフトボール大会の弁当容器と残飯を分別してリサイクルできた。
- ・焼却していた紙をさらに分別し、マテリアル又はサーマルリサイクルできた。
- ・焼却していたオイルシートをサーマルリサイクルできた。
- ・マグネシウム切粉を埋立していたが、リサイクル業者を見つけた。
- ・埋立していた工具研削時の超硬工具研削粉を、工具材料メーカー買上げに変更できた。
- ・工程カードケースの回収と再利用を推進した。



専用分別大型容器（第1工場北）



工場内分別容器

皆さんの協力で分別の精度が上がった事や、あきらめずリサイクル先を見つけた事で、大きな成果につながりました。また、リサイクルの仕組みを構築する事に取り組んだ事例もありました。皆さんの活動が、循環型社会の形成に貢献しています。

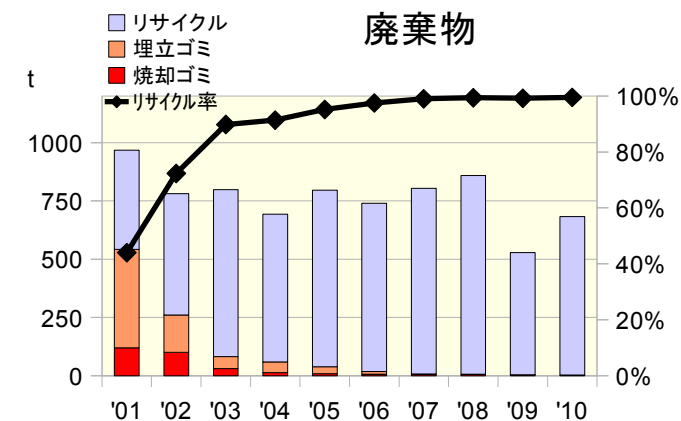
数値とグラフは、次に掲載しています。

《総量減少傾向 リサイクル率 99.5% 埋立ゴミ 0kg (CF. AP. 本社)》

廃棄物の内訳 (2010年)	
リサイクル	680t
埋立ゴミ	0.0t
焼却ゴミ	3.2t

リサイクルの主な内訳	
砥粒粉	229t
油泥	170t
ボンデスラッジ	107t
廃油	50t
脱水汚泥	48t
廃プラスチック	32t
木屑	17t



埋立ゴミと焼却ゴミは、2007年以降グラフでは見えないくらい削減しています。

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
埋立ゴミ (t)	29.20	11.10	1.62	1.50	0.24	0.00
焼却ゴミ (t)	9.40	6.95	5.65	5.07	3.63	3.19

### ◇ 循環型社会のために順次作られたリサイクル法

**容器包装リサイクル法**平成9年1月 ・一般の家庭でゴミとなって排出される、商品の容器や包装に使われた廃棄物（びん、缶、お菓子の袋、ペットボトル、レジ袋など）をリサイクルする目的で作られました。

**建設リサイクル法**平成12年11月 ・コンクリート塊や木材の建設廃棄物は、産業廃棄物全体の排出量及び最終処分量の約2割を占め（平成13年）、また不法投棄量の約6割を占めていました（平成14年）。この解決策として、廃棄物を再び利用していくための法律です。

**家電リサイクル法**平成13年4月 ・テレビ、エアコン、冷蔵庫、洗濯機の家電四品目を対象に、消費者には再商品化などに関する費用の負担、販売店には消費者からの引き取りとメーカーへの引き渡し、メーカーには再商品化をそれぞれ義務づけています。

**食品リサイクル法**平成13年5月 ・食品製造工程から出る材料くずや売れ残った食品、食べ残しなどの「食品廃棄物」を減らし、リサイクルを進めるため、生産者や販売者などに食品廃棄物の減量・リサイクルを義務付けました。

**自動車リサイクル法**平成17年1月 ・解体業者が解体したフロン類、エアバッグ、シュレッダーダストの3品目を自動車メーカーがリサイクルし、その費用を自動車所有者が負担するという法律です。（フロン類は破壊され、リサイクルされません）

### 日本には、都市鉱山がある！ 使用していない携帯電話は、携帯ショップへ！

携帯電話1台からは、0.03gの金が抽出されます。携帯電話1万台（1t）で、約300gにのぼります。金鉱山の鉱石から採れる金は、1tあたり5g程度しかありません。携帯電話1t分は、普通の金鉱山の60倍もの良質な鉱山です。これを「都市鉱山」と呼んでいます。

日本国内に蓄積されリサイクルの対象となる金属、すなわち「都市鉱山」の量は、金が約6,800トンと世界の現有埋蔵量42,000トンの約16%、銀は60,000トンで22%に及びます。携帯電話だけでなく、パソコン・デジカメなど小型家電も、様々な希少金属（レアメタル）が使われています。まさに、宝の山です。